

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会会報(Der Wind)

VOL. 15. NO. 6. 通巻91. 発行 2013. 10. 3

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091



湘南オクトーバーフェスト 湘南日独協会創立15周年記念開催



ドイツ大使館 ワインベルグ氏の挨拶

10月4日湘南オクトーバーフェスト開催、会場は満席で15周年記念に相応しい大盛況でした。ドイツ大使館よりヨナタン・ワインベルグ氏、一等書記官文化担当、が夫人と出席、鈴木恒夫藤沢市長もご多忙の中ご出席、お二人から御祝辞を頂きました。松尾崇鎌倉市長からはメッセージが寄せられました。

司会進行には今年はフロリアン・ガイヤ君(現在東大留学中)が加わりタベヤさん、峯松さんと大奮闘でした。彼のメッセージを2頁に掲載しております。

今年は記念のオクトーバーフェストに当たり、これまでの功績を讃えて、吉田克彦さんと若林倅子さんへ感謝の記念のワイ。お贈りしました。また、参加者の皆様へは記念のドイツビール1本がお土産として贈られました。このビールは、ザクセン王の飲物として醸造されたラーデベルガービルスナービールで、コースターと一緒に包装され、15周年記念のロゴ、ドイツ国旗のリボンに飾られた、飲むのが惜しいと思われるお洒落な贈り物でした。



オクトーバーフェスト会場

湘南日独協会の活動予定

■藤沢国際交流フェスト

日時 11月10日(日) 11:00~15:00

会場 藤沢駅サンパール広場(湘南日独協会のブースはさいかや2階東口付近)

お手伝い出来る方はお集まり下さい

三谷副会長、伊藤理事が担当いたします

■Singen wir zusammen!歌で楽しむドイツ語 第14回 クリスマスの歌(Weihnachtslieder)を歌います

日時 11月10日(日) 15:00~16:30

会場 江ノ電第2ビル4F 湘南アカデミア

会費 1,000円

申込み、問合せ:木原

Tel: 0466-28-9150

E-メール: jdgs@jcom.home.ne.jp

■11月例会 講演会

「ライン・ロマン主義とローレライ」

講師 森涼子氏 大学講師(ドイツ文化史研究)

日時 11月24日(日) 15:00~16:30

会場 江ノ電第二ビル7F 湘南アカデミア

会費 1,000円

懇親会(講演終了後)会費:3,000円予定

居酒屋「北海道」

■望年会

日時 12月21日(土) 16:00~

会場 ワイン酒場・イザヴィーノ

鵠沼石上1-3-10

Tel. 0466-54-7572

会費 5000円

■Singen wir zusammen!歌で楽しむドイツ語 第15回 Liebe (愛の歌)を歌います

日時 1月12日(日) 15:00~16:30

■総会ならび例会日程

1月19日(日) 午後を予定しています

新入会員紹介

敬称略

伊東 明

中嶋 照夫

中村 武夫

ダヴィッド ガルデ

Wird dieser Abend noch sehr lange im Gedächtnis bleiben

Florian Geier



峯松さん、フロリアン君、タベヤさん

Am 4. 10. 2013 hatte ich das Vergnügen zusammen mit Tabea Kauf und Frau Minematsu das Oktoberfest der JDG Shonan moderieren zu dürfen. Zwar findet dieses Fest jährlich statt, doch hatte es in diesem Jahr auch eine besondere Bedeutung, da 2013 das 15 jährige Jubiläum der JDG Shonan stattfindet.

Den Abend eröffnete Herr Nishiyama mit einer kurzen Erklärung zum diesjährigen Oktoberfest, gefolgt von der Erklärung des Ablaufs des Abends, durchgeführt von Frau Minematsu, Tabea und mir. Tabea und vor allem mir war die Anspannung zwar anzusehen, doch irgendwie schafften wir es, den wohl wichtigsten Punkt – es dürfe doch jeder gerne so viel trinken, wie er mag, denn die Getränke sind frei – zu vermitteln.

Nach einer kurzen Rede von Präsident Oda erwies uns Herr Weinberg von der deutschen Botschaft die Ehre und hielt ebenfalls eine kurze Ansprache zur Bedeutung der Japanisch-Deutschen Freundschaft. Auch wenn durch meine nicht immer ganz perfekte Übersetzung einige Nuancen verloren gingen, zeigte sich das Publikum sehr dankbar und der Applaus war beachtlich.

Es folgte eine Danksagung an Herrn Yoshida und Frau Wakabayashi, ohne deren Hilfe das Oktoberfest so nicht durchführbar gewesen wäre.

Nun begann auch der Teil des Abends, der dem deutschen Oktoberfest am nächsten ist: das Trinken! Das erste Prosit lautete den Rest des Abends ein und alle Anwesenden stimmten freudig mit ein.

Die Chorgruppe "Amsel" erfreute nun mit einigen Liedern alle Anwesenden und ich selbst war erstaunt, in Japan eine solche Darbietung deutscher Gesangkultur erleben zu können.

Nach einer kurzen Vorstellung der übrigen anwesenden Deutschen – auch die Familie von Tabea Kauf war anwesend – begann das Edelweiss-Trio aufzuspielen. Ich persönlich hatte bereits einmal das Vergnügen, dem Trio zuhören zu dürfen, doch das minderte meine Begeisterung nicht im Geringsten.

Es folgten freudige Gespräche und mehr Gesangseinlagen der Amseln und des Edelweiss-Trios und, als Höhepunkt des Ganzen, ein Gemeinschaftsauftritt der Amseln und des Trios. Als wäre das nicht schon genug gewesen, um einen Deutschen in Japan zu Tränen zu rühren, gab es sogar noch eine Tanzeinlage aller Anwesenden! Bereits so wäre der Abend unvergesslich gewesen, doch als krönenden Abschluss erhielt jeder Anwesende noch eine Flasche echten deutschen Bieres überreicht!

Mir – und hoffentlich allen weiteren Teilnehmern – wird dieser Abend noch sehr lange im Gedächtnis bleiben und ich freue mich darauf, vielleicht auch nächstes Jahr wieder Teil dieser wundervollen Veranstaltung sein zu dürfen.



記念品のワインを掲げる吉田さん



織田会長と若林さん

思い出に残る一タ ガイヤ フロリアン

恒例の湘南オクトーバーフェストが、今年は協会創立 15 周年を迎えて、10月4日開催され、タベヤさん、峯松さんと司会者として参加し楽しみました。西山さんの挨拶説明で始まり、私は特に緊張感がありましたが、フェストの進行内容の説明をし、大事な飲み放題を伝えました。織田会長の挨拶、ドイツ大使館のワインベルグ氏の挨拶と日独友好のお話があり、私が通訳しました。ニュアンス等を十分に伝えられなかったのですが皆さんが理解し拍手を頂き有難うございました。吉田さんと若林さんへの感謝の式がありました。そしてドイツのオクトーバーフェストと同じように宴が始まりました。

そうです!! トリンク!! です。最初の乾杯で全員陽気な気分になりました。アムゼルのコーラスは素晴らしく、私は日本でこのようなドイツの歌の演奏が行われているのに驚きました。ドイツ人の参加者の紹介、中にタベヤさんのご家族もおられ、そして☆☆

特別寄稿

湘南日独協会 15 周年に寄せて

会員 吉田 克彦

ビアパーティから始まった

湘南日独協会は皆様の手によって素晴らしい活動が繰り上げられています。海外との交流も進んでいます。合唱団もリサイタルを実現されましたそれにドイツ語講座。いまから15年前にはこうした活動が全くなかったというのが不思議な気がする位です

湘南日独協会の活動が始まる前に、実は10年の歴史があったことを記録止めておいた方が良いのかなと思ひまして、大久保さんの要請につられてパソコンに向かう事にしました次第です。

私は昔から何故かビールが好きで、用事で東京に行った時は銀座のビアホール、ライオンやゲルマニアに立ち寄って一杯やるのを楽しみにしておりました。そのうち年と共に東京まで出掛けるのがおっくうになり、どこか湘南地方でビールが無いものか探しましたが適当な場所は皆無でした。それならば年に一度くらいはレストランを貸し切りにして貰って仲間を集めてビアパーティを開けば良いと思ひつきました。レストランはホテル法華倶楽部の2回にあったレストラン「ヴェルデ」が応じてくれました。ここには当時グランドピアノがありました。

歌手さんとピアニストが見つければ何とかなります。たまたま紹介されてソプラノの真島敦子さんをお願いしたら、「私はクラシックの歌手ですからビアホールの歌などは歌えません」とおっしゃるのです。ならばビアホールに一度行ってみましょう！と言うことになりまして、横浜・東京のビアホールを数軒巡り歩いてやっと納得して頂きました。

演奏の様子も見ておきたいと思い、大倉山のホールに真島敦子さんのコンサートを聴きに行きました。そこで驚いたのは「花売り娘」の演出でした。曲はチャプリンの映画「街の灯」の主題曲「すみれの花売り娘」を歌いながら手籠の花を会場に配って回るという趣向です。これがすっかり気に入ってドイツフェアで毎回の演目になりました。当初ピアノは佐藤朋子さんでした。

そのような次第で平成元年7月29日の夕刻、一日限りのビアホール開催に漕ぎ着けることが出来ました。何故かは忘れましたがこのイベントを何と「ドイツフェア」と名付けておりまして、会場には雰囲気作りにドイツ国旗を張り巡らせました。ドイツ滞在の長かった高島泰二さんも

☆☆エーデルワイス・トリオの演奏が始まりました。私は個人的にそれまでに聞いたことがありましたが素晴らしいものでした。さらに、アムゼルとトリオの合同演奏で盛り上がりました。日本にいるドイツ人は感激のあまり涙を流すのではないかなと思ったのは全員参加のダンスでした。思い出深い一夜となりその上帰りには全員にドイツビールがお土産として配られ最高でした。私には、勿論参加者全員にも、この夜が長く記憶に残ることでしょう、そしてまた来年も参加出来ることと嬉しいと思っています。抄訳 大久保

出席されて楽しいドイツの話をしてくださいました。そんな具合で何とか第1回の「ドイツフェア」を無事に終わることが出来てホッとしました。

それから一月ほどして真島敦子さんから電話が来ました。「今はゲルマニアで毎週火曜日にレギュラーで歌っています。一度見に来て下さい！」と言うのです。そこで出掛けて見ますと、真島さんがステージでビールジョッキを片手に「アインブロージット！」をやっているではありませんか。女性の変わり身の早さには全く度肝を抜かれました。

7回目からは中島良能さんをお願いして「楽団シュヴァルベ」をピアノと弦楽四重奏で担当して頂きました。歌は梶井智子さんになり、歌もオペラアリアやオペレッタと広がりました。また、ヴァイオリン・ソロでは鈴木梨津子さんや石塚千恵さんのチャールダッシュで大いに盛り上がりました。



ドイツフェアの頃

平成10年の7月25日の第10回ドイツフェアは記念すべきイベントですから盛大にと思っていたのですが、開催日1週間前になっても申し込みが20名程にしかありませんでした。さあ大変といつも来て下さっている方々に電話して見ましたら、「この日は江の島の花火大会だよ」とおっしゃいます。江ノ島の花火はもう見飽きているでしょうからビールを飲みに来て下さいよと申し上げても「お客が来るから駄目だ」というのです。これは大変だとあちこちに電話をしました。

その結果、ドイツ大家族が3組、東京の日独協会の理事さんが二人（お一人は織田正雄現湘南日独協会会長）ご出席となり、やっとパーティ開催に漕ぎ着けました。しかし、当日は思ってもみなかった事態が起こりました。先ずドイツフェアですから相変わらずドイツの国旗をたくさん壁に貼っていました。ドイツに堪能な方々がいらつしやると「ドイツ国旗がみんな逆さまだよ！」慌てて国旗を貼り替えました。次はビールです。カールスバーグのビールを出したら「これデンマークのビールだよ！」・・・「こんなことを10年も繰り返しているんだったら日独協会をつくったらどうですか。そうすればこんな失敗はしないで済むでしょう」と言われて、ならばとその年の暮れ、11月17日に岩崎英二郎会長の下に湘南日独協会の設立総会が鎌倉パークホテルで開かれたのです。

あの日からもう15年が過ぎたのですね。

アムゼルの10年

会員 アムゼル代表 西川 統



1998年に湘南に日独協会が誕生するニュースに接してすぐに入会をと考えながら、実務生活の終期に居た私は忙しさにとりまぎれそのままになっていました。

2003年に隠居生活にはいり、あれやこれやの浮世の義理も果たして、半世紀前に少しだけ齧った合唱をやろうと参加したのが湘南アマデウス合唱団でした。それから5年ほど経って団長の赤羽根さんから日独協会にアムゼルという合唱団があるが入りなさいとのお話があり、それまで忘れるともなく忘れていた日独協会のことを身近なものとして感じるようになりました。喜んで加入させてもらい久しぶりのドイツ語の歌を楽しむことになりました。

すこしばかり自分史を語らせていただきますと、1954年に大阪外国語大学のドイツ語科に入学し、ヘルマン・ボーネル先生の毎回の授業でAlte liebe Gesängeという小歌集の中からの先生の独唱を聞き、メロディーを覚えるという楽しい授業を受けました。先生はいささかビブラートするバリトンで、いつもアカペラで歌われたのですが、歌う楽しさは十分学生たちのものになりました。

大学では秋の文化祭は「語劇祭」と称して各語科が3回生を中心に何らかの出し物を上演します。ドイツ語科では2回生の時には「魔弾の射手」の狩人の合唱に狩り出され、衣装をつけて舞台上がり、足の震えたことを覚えています。勿論このころは上級生の特訓を受けてもおおコール・ユープンゲンなぞ見たこともなかったころです。

この頃には秋になると大阪の日独協会がピア・アーベントを開き、たまにはドイツの歌が歌えるということで我々の臨時の「ドイツ民謡合唱団」を招いてくれました。昨今の湘南のオクトーバー・フェストほどの賑やかさはなかったように記憶していますが、参加者もそれなりに多くて楽しい雰囲気のものでした。合唱以外に10人程度のカペレがメインで出演していました。

アムゼルに入団した当時の団員数は20人程度でしたでしょう。すぐ日独協会の10周年記念行事が行われ、結成からの5年の努力を跡付けるため、アムゼルはこれを「結成5周年記念」と位置づけ、それまで歌いこんで来た愛唱歌をご披露したのです。当初からの団員諸氏にとってはそれなりの基礎が出来上がったとの満足感のあるものだったのですが、お聴き頂いたドイツ語達者の日独協会会員の誰それから「今のはドイツ語だったよね？」と好意的？なダメ押しを出されたことをはっきりと覚えています。それからの数年間、ワイマール市民の来訪や毎年の湘南のオクトーバー・フェストへの出演、さらには地域の公民館祭りや病院での患者向けクリスマス行事の一つとしての歌唱と多様な発表の場での経験を積み着実な進歩を見せて来ました。



楽しい合宿の晩

2009年から2代目の団長を引き受けることになり、それ以来「ふじさわ合唱祭」にも連続で参加し、「ドイツ語で楽しく歌う」ユニークな合唱団として存在を認められるようになりました。初参加の頃の講師の批評と比べますと、この3年で「言葉もはっきりし、音楽性も見違えるほどに『ドイツの歌』らしくなっている」ことを評価していただいています。2011年5月の湘南日独協会主催「日独交流150周年記念『日独音楽家の集い』」には前座ではありましたが出演でき、引き続いてのドイツ大使館主催の同上の行事に有栖川記念公園での演奏に招かれるなど発表の場と新しい経験を得ることが出来ました。



梶井智子先生



内海祥子先生



演技の練習

3年前から志賀ギゼリンデさんがアルトに加わりました。指揮者梶井智子先生の音楽と歌詞の表現、基本的な読み方と発音についての毎練習ごとの熱心な指導に加えて、ギゼリンデさんからの日本式発音の欠点指摘や本物のドイツ語発音の指導と念が入り、団員は歌だけでなく発音についても急速な進歩を見せています。また、その過程でのやりとりが一段と楽しい雰囲気を作り上げています。これらの成果を引っ提げて、結成以来の10年の集大成としてこの5月に大船の鎌倉芸術館小ホールで『アムゼル 結成10周年記念コンサート』を開かせていただきました。これは湘南日独協会とアムゼルの共同主催で、「協会創立15周年記念」を併せたものでした。600の席がほぼ満席になり、団員の華やかな衣装と踊り、男声陣の歳に負けない（失礼！）陽気な踊りも加えて聴衆の皆さんにも十分お楽しみいただけたと自負しています。



大きな声で楽しく

団員の中には「歌」にとどまらずピアノは勿論、アルペンホルンやマンドリンなどの楽器演奏に長け、また複数の合唱団に属してそれぞれの特徴を追い、楽しんでいる多くの団員がいます。特筆すべきは「音楽」ともいえるべきオペラの愛好家の集いを率い、アマチュアながら定期的な上演まで実現している人もいます。この人たちの音楽経験もアムゼルにとっての大きな財産です。ただ一曲を仕上げるだけでなく、その曲の詩情、歌詞の内容、背景にまで立ち入って理解しようという努力と、苦手の発音を少しでも解消しようとする前向きな姿勢が団員のドイツ語のレベル向上にも大きく役立っています。



アムゼル



5月のコンサート

今年のオクトーバー・フェストで「歌で楽しむドイツ語」のメンバーがその歌声をご披露されました。アムゼルは最初から合唱団ですから、演奏方式での違いはありますが、精神において「ドイツ語で楽しく歌う」ことが共通のテーマです。これからのオクトーバー・フェストでは両者の歌声が響き続けることでしょう。ある声楽の専門家から「歌に志して10年勉強してやっと入り口に達した」とのお話を伺ったことがあります。アムゼルもまだまだ技術的な点では勉強中ですが、さらに15周年へ向けて成長を続け、その過程においていろいろな機会をとらえて湘南日独協会の活動の本来の目的を達成するための大きな力になって行きたいと考えています。皆さんのご鞭撻をお願いして稿をとじます。（了）

♪♪ アムゼル団員募集

練習日 第1、第3、第5水曜日
時間 13:30 ~ 15:30
場所 藤沢カトリック協会
連絡先 事務局 水谷（電話045-895-6845）

お知らせ

「ガルデ・オイル パステルの会」

ドイツ・ヴォルプスヴェーデ生まれオーストリア・ザルツブルク育ちの、新入会員ダヴィッド・ガルデ (David Garde) 氏は湘南エリアで絵画講師を務めつつ芸術活動をしています。

ドイツ語、英語、日本語会話が可能です

返子教室

第1 第3金曜日 16:00~17:30

会費 入会金なし

月2回 2,500円

会場 返子市沼間公民館

電話 046-872-2449

問合せ ダヴィッド・ガルデ

電話080-6506-1750

インターネット クレパス画 RAUMLAND で検索

ドイツ旅行記

水と緑豊かなシュプレーヴァルト、
昔ながらの平底舟 (Kahn) に乗る！

アムゼル合唱団 真室泰子

5月下旬、湘南日独協会主催の10日間の東部ドイツの旅では、通常の旅行ではなかなか行けない街や田舎を訪ねて歩き回り、また各地の独日協会の方々と昼食会、夕食会で親しくお話する機会を得て大変楽しく有意義な交流の旅となった。アムゼル合唱団員8人はドイツの名歌「菩提樹」「ローレライ」「野ばら」をドイツ語でご披露し、さらに「故郷」「浜辺の歌」をドイツ語と日本語で会場の皆様と一緒に歌ったことはこのうえない喜びでした。

この旅で特に楽しかったことは、ドイツの大自然を自分の身体を活動させ身をもって味わったことです。ザクセンスイス国立公園でのハイキング、バルト海に浮かぶリュウゲン島ヤスメント国立公園での軽ハイキング等、同好の皆様と共にドイツの大地を一步一步踏みしめ歩いたことは、他のどんな楽しみにも代え難い体験でした。

さらに、ベルリンの南東に位置するブランデンブルグ州シュプレーヴァルトの森の中、シュプレー川でのカーン (Kahn、平底舟) に乗っての遊覧は素晴らしいものでした。

ドイツの田舎で昔の人はかくもゆったりとのどかに生きていたのか・・・見回す限り、陸地には森の木々 (ハンノキ



ヴァルトブルク城の大倉、関川、真室、池田さん。

や白樺に似た木)、水辺には葦や水草が繁茂して、これは自然の小川なのか、昔物資を運んだクリークとして作られたのか、その両方か、両岸は自然のままに水草で覆われていて、コンクリートの護岸壁などはいっさいない。このような小川や水路網が縦横に走り、200ヶ所、1300キロにもおよぶと聞く。

出発地の岸から乗り込むときにはその土地の娘さんが民族衣装を着て出迎えてくれて一緒にパチリと記念写真におさまった。昔お祭りのときはこのような衣装で村人たちが賑やかに集まり楽しんできたのであろう。その日は雨模様でもあり、私たち20数人以外に他の観光客が沢山いるわけでもない、静かな水辺であった。船頭さんが一本の長い櫂で漕ぎだした。船べりから手を伸ばせば川の水に手を浸すこともできる。

100年前のシュプレーヴァルトのお祭りから抜け出してきた娘さん二人と、その時代にワープしたようなひと時であった。



シュプレーヴァルトの少女たちと

リュウゲン島ピンツの思い出

会員 池田純江

北ドイツの海沿いのリゾートとバルト海！

とても遠い所とおもっていましたが、今私達はリュウゲン島、森と白い岩肌と何キロも続く美しい海岸線を持つリゾートとして人気のオストゼーバード (通称ピンツ) に到着！

私達は魚介のおいしいサンドウィッチが目的で楽しみにしていました。

生憎の小雨模様の海岸線を小走りで (滞在時間が少

なかった) 町に向かった。

明るく白い美しいホテルやみやげ物などが並び人々にぎわう町の熱気あふれる軽食スタンドを見つけ (ここはガラスケースの氷の上に並べられた、カキ、ニンシン、ウナギ、エビetcが見事なステキな店でした)。私達はHering (にしん)、トマト、レタス、玉ねぎなどをたっぷり挟んだ魚サンドとジャガイモのズップを求め、店内のムード溢れる大きなテーブルに着き、海辺の楽しい食事のひとつを過ごしました。これはホワイトアスパラと共においしい思い出の一つになりました。

再び訪れてゆっくり楽しみたい町のひとこまでした。

バルト海沿岸の町

会員

関川由美子

バード・ドーバーランからキューリングスボルンまで37 km間を“モリー鉄道”という小さな蒸気機関車に乗りました。最初は街町みの中をゆっくりと走り、町を抜けるとスピードを上げ緑の森、黄色い菜の花畑etc・・・、あいにく天候は雨でしたが、マイナスイオンを感じながら美しい景色を駆け抜けました。

時折汽笛の音や車窓が蒸気で見えなくなったりと懐かしい40分間の鉄道の旅を楽しみました。モリー鉄道は何度かテレビで見ていたので覚えていた景色が目の前で手に取るように見られ感激しました！！

キューリングスボルンは名前の通り Kühl (冷たい) な風の吹く淋しい所だと想像していました。しかし実際はドイツ人の夏のリゾート地でとても美しく洗練された町並みで驚きました。建物は白を基調としていて統一感がありドイツの他の町とは雰囲気異なっていました。ホテルの隣は市庁舎でしたが、“Rathaus”と書いてなければわからない、かわいらしい白い建物でした。市庁舎の後ろには幼稚園があり日本では考えられない配置ですが、各々庭の花もきれいに手入れされていて本当に美しい町並みでした。

バルト海沿岸全般に言えることですが、吹く風は磯の香りが無く乾いていて海岸にいることを忘れる心地の良いものでした。(季節や潮の関係もあるかもしれませんが・・・) 海岸はシュトラントコルプ (藤製のビーチチェア) が美しく並びいかにもリゾート地という趣でした。

夕食のレストラン“ヴィルヘルムス”のホロホロ鳥はとっても美味でした！！ビールも最高！！夕食後はホテルまでアムゼルの人達と歌いながら海岸を歩きました。ビールも入った勢いでまるでバルト海を舞台にしているような錯覚で気持ち良く歌いました。

元々私はバルト海地域は暗く閑散としたイメージを持っていましたが美しくハイセンスなこの地にまたいつかゆっくりと避暑で滞在したいと思っています。



バルト海 (オストゼー) を背景に

ベルリンフィルを聴く

会員

大倉 薫

今回の旅行での楽しみのひとつはベルリンフィルを聴くことが出来ることでした。時々、テレビではお目にかかるプロムシュテット氏指揮によるベートーベン4番。ただ「臨場感があった」と言ってしまうには余りにも軽く、「最前列のこの場所で」「呼吸がわかるこの距離で」鑑賞出来たことは感激でした。

翌日、ベルリン独日協会との夕食会の折りに、プロムシュテット氏引退のお話を伺いました。これら引退公演全ての日に花束を贈っていたとは思えないのですが、ひょっとして私達が聴いたのは千秋楽だったのでしょうか？ もしそうだとしたら、その日に遭遇したことも貴重な思い出です。チケットを手配下さった織田会長さんや独日協会の方に心より感謝です。

今回の旅行では、会長さんはじめたくさんのドイツ生活経験者がおられ、時に触れ、いろいろなお話を伺う事が出来ました。また普通の観光では訪れないような場所の見学もさせていただいて本当に有意義でしあわせでした。



ベルリンフィルの演奏



モリーの蒸気機関車

☆☆ ドイツのお菓子のお話

クリスマス・クッキー ☆☆

会員 林 永子



『ドイツの人達にはクリスマスが一番の行事です。11月末になると主婦はクリスマスの準備にかかります。

シュトレンも焼きますが、必ず作るのはクッキーです。おせち料理のように、昔からクリスマスの為のクッキーには色々な種類があります。例えば、

Lebkuchen, Zimsterne,

Honig Kuchen などです。ですから、クッキー作りは時間がかかります。木の実や、スパイスなどを使い沢山の種類を作り、家庭の味を出します。でも、子供達に喜ばれるのは星やサンタの形に型取りした一番シンプルなクッキーでした。

出来上がったクッキーは綺麗な袋に入れて、プレゼントと一緒に親しい人に渡します。

懐かしい、ドイツの思い出です。』

会員 林 永子

お菓子と喫茶「ほたるのこみち」

11:30~17:00 定休日:日曜、月曜

電話 0467-24-8641 鎌倉市扇ガ谷1-14-11

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

編集後記

○創立記念特集のⅡには、吉田克彦氏の湘南オクトーバーフェストの前身ドイツ・フェアの思い出の特別寄稿を頂きました。生みの親育ての親として今年は感謝の記念品が贈られました。同時に例年オクトーバーフェストのプログラムの作成を引きうけて頂いている若林さんにも贈られました。これからもお二人にはご支援をお願いしたいと思います。

○合唱団アムゼルも10周年を迎えコンサートも開催しました。西川代表に10年の歩みをご寄稿頂きました。今後の益々の活躍を祈りたいと思います。

○地元の鎌倉、藤沢両市の国際交流フェスティバルに引き続き参加しています。若い人たちの交流を支援出来ることが期待されます。

○ドイツ語で歌おう! (Singen wir zusammen)の参加者も増えています。望年会に皆さん参加して一緒に歌いませんか。そして、2014年を元気で迎えましょう! (大久保)

かまくら国際交流フェスティバル2013

10月6日(日)恒例のフェスティバルが高徳院(鎌倉大仏)で開催され、湘南日独協会もアルプホルンのダンケシェーンの演奏とブースを設けて参加しました。ブースに100名をこえる来訪者(ドイツ人も多数)があり織田会長、松野、三谷両副会長はじめ多くの理事、会員が対応に追われました。来訪者のお一人から写真とメールが木原理事に届きましたので紹介します。

Sehr geehrter Herr Kenjiro Kihara,
am 6.10. haben wir uns in
Kamakura beim Stand der
japanisch deutschen Gesellschaft
getroffen.



Wie versprochen sende ich das Bild von Ihnen und meiner Frau! Es war ein schöner Tag und wir haben uns gefreut, Sie kennenzulernen. Alles Gute und viele Grüsse nach Japan

Ihr Imke & Christoph Grabe

鎌倉大仏見物に訪れたところ、フェストが開催されており、立ち寄ったところ、日本とドイツの国旗が飾られていたので、意外なところで、と思いながら、jdgsブースを覗いた。湘南日独協会という組織が有った事も、日独文化交流・支援活動をしている事も、初めて知り、大変嬉しく思った」と話されていました。(木原)



会員 鬼久保氏の率いるダンケシェーン



ブースを訪れた若者達

★★湘南日独協会ホームページ★★

<http://jdgs-schonan.ciao.jp/>